



キャンパス・コンソーシアム函館

合同公開講座

函館学 2022

第4回講義

講義資料

変わる図書館サービス

講師：丹羽 秀人

函館中央図書館前館長

日時：令和4年9月17日(土)

13:30~15:00

会場：函館中央図書館 視聴覚ホール

主催：キャンパス・コンソーシアム函館



キャンパス・コンソーシアム函館

丹羽 秀人（にわ ひでと）

函館中央図書館 前館長

講師略歴

1956年北海道北見市生まれ

桜美林大学文学部卒、鶴見大学図書館学課程修了。

株式会社学校図書サービス（現株式会社図書館流通センター）入社。

東京、北海道などの図書館営業を担当。城南営業所長、札幌営業所長を勤めた。

1997年石狩市に教育委員会図書館開設準備室主査として採用、

石狩市民図書館係長から市民の声を聴く課課長、図書館副館長を歴任。

2015年から2022年3月まで函館市中央図書館の館長。

子母澤寛文学賞、函館市舞台芸術奨励事業、益田喜頓賞、神山茂賞の選考委員。

函館碧血碑会事務局長。

変わる図書館サービス

1 図書館との出会い

- ・鶴見大学で「図書館建築論」を菅原峻先生から学ぶ
- ・図書館専門営業マンになる（49館の図書館立ち上げを営業として担当）

2 石狩市民図書館の立ち上げ

- ・石狩市に図書館開設準備室主査として採用
- ・菅原峻先生との再開
- ・いくつもの賞を受賞した評価の高い建築

3 歴史ある函館市立中央図書館の運営

- ・函館市中央図書館長として赴任
- ・石狩市民図書館を参考に建てられた函館市中央図書館
- ・設計者選定プロポーザル委員に菅原峻先生も加わっていた中央図書館

4 図書館はどう変わっていくか

- ・I Cの導入
- ・自動貸出・返却
- ・自動書庫、電子書籍
- ・資料のデジタル化公開
- ・ラーニング・コモンズは公共図書館でも取り入れられるか

すがわら たかし
菅原 峻

1926年八雲町に生まれた。旧制北海道庁立八雲中学校卒業し八雲町役場に就職。終戦の年に少年兵として志願、復員後は役場に復職して教育委員会で公民館図書室の開設、運営などに携わった。図書館の知識はなかったため、市立函館図書館で岡田弘子氏の指導を受けた。岡田さんに文部省図書館職員養成所への入学を勧められ、役場を退職して上京。1951年（昭和26年）から図書館職員養成所と法政大学夜間部に通って図書館情報学を学んだ。

1953年養成所を卒業し、社団法人日本図書館協会に勤務。協会在職中全国の図書館設置に大きな影響を与えた『中小レポート』『市民の図書館』の刊行に関わった。『市民の図書館』増補版の増補部分は菅原氏の執筆である。アメリカ合衆国、北欧、東欧などの図書館を視察、1975年にはフィンランドで開催されたユネスコ図書館建築会議に参加した。

日本図書館協会では総務部長を最後に1978年早期退職し、図書館計画施設研究所を創設した。この頃鶴見大学の講師も勤めている。図書館計画施設研究所が基本計画を策定した図書館は100館を超え、佐賀県の伊万里市民図書館、福岡県の苅田町立図書館、千葉県の君津市立中央図書館、埼玉県の小川町立図書館などは特に有名である。北海道では唯一石狩市民図書館のみである。この他設計、運営をアドバイスした図書館、プロポーザル委員などで関わった図書館は数百館にのぼる。全国で活動する図書館友の会などの図書館関係市民団体とのきずなは深く、彼らの活動を掲載した冊子『としょかん』を1981年創刊した。菅原峻氏は2011年亡くなったが、その意思を継いだ人たちによって2015年の通算100号まで発行された。